

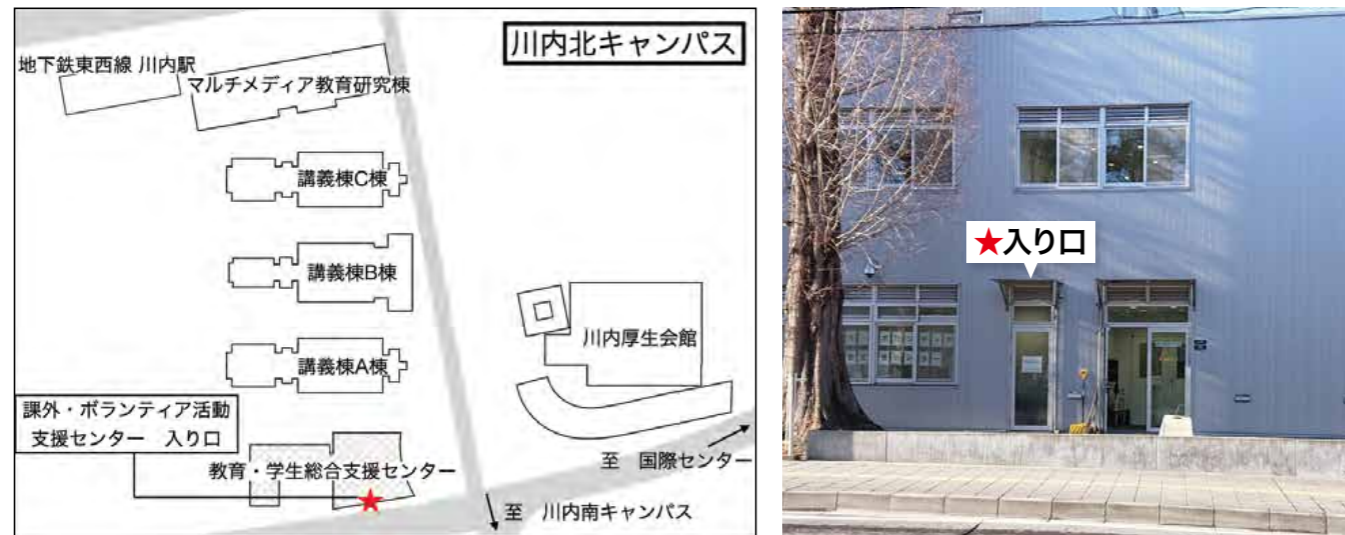
編集後記

コロナ禍で学生ボランティアを取り巻く環境は大きく変わりました。
ですが、地域社会がボランティアをはじめとした支援活動を必要としている現状は変わりません。コロナ禍で顕在化してきた課題も多くあります。
ボランティアを含めた社会が変わりつつあるタイミングだからこそ、「私たちは何ができるのだろう」と一緒に考え、行動してみませんか。
このジャーナルが、大学の外へ一歩足を踏み出すきっかけになることを願っています。

課外・ボランティア活動支援センターAA 千葉隆司(理学研究科博士前期課程1年)

課外・ボランティア活動支援センター利用案内

ボランティアに関連する個別相談(情報がほしい、活動に関する悩みがある、団体設立を考えている等)もお待ちしております。相談希望の方は、直接訪問あるいはメール・電話・SNS等でお問い合わせください。



課外・ボランティア活動支援センター

https://www.ihe.tohoku.ac.jp/?page_id=7395

東北大学の学生ボランティア支援

<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/studentinfo/studentlife/02/studentlife0210/>

東北大学ボランティア支援学生スタッフ SCRUM

<https://scrum-tohoku-univ.jimdofree.com/>

 @TOHOKU_VOL  @voltohokuuniv  @scrum_1446

ボランティア情報
メール配信サービスへの
登録はこちらから



ボランティアへの
新たな一歩を
応援しています!

Pick Up! 表紙写真エピソード



ReRoots

育てた野菜を収穫している様子です。農家さんに直接ご指導頂き、活動の土台となる信頼関係を作っています。育てた野菜は自らの手で販売したり、漬物等への加工にも挑戦！その他にも若林区沿岸部の地域おこしに向け幅広く活動しています。詳しくは団体紹介ページで！

Navidad

「Navidad」は今年で36回目を迎えるSENDAI光のページェントの企画・運営に携わる学生団体です。本写真は、本年の活動の一つである定禅寺通りの見回りをしながら、清掃活動やアルコールの補充を行なっている様子を取った1枚です。



特別支援室・学生サポーター

バリアフリーマップ作成の写真です。各キャンパスにあるスロープや多目的トイレの位置を調査し、地図にまとめています。学生サポーターは全ての人が快適な生活を送れるよう日々活動しています。

たなぼた

大和町市営住宅でロコモ体操を行なった際の写真です。コロナ禍で約1年半ぶりの対面活動でしたが、住民の皆さんにあたたかく受け入れて頂きました。ほとんどの参加者が初めての活動で緊張していましたが、表情や声の調子が支障なく伝わる対面での活動は安心感のあるものでした。



INDEX

東北大学のボランティア支援

課外・ボランティア活動支援センターについて 4,5
 東北大学 SCRUMについて 6,7
 【コラム1】ボランティアと私①ボランティア活動を始めてみて 8,9
 【コラム2】ボランティアと私②ボランティア活動の経験を振り返って 10

東日本大震災の発生から11年

東日本大震災を学ぶ 11,12
 防災を学ぶ 13
 全国の災害被災地での活動 14
 津波被災地の復興まちづくりと現状 15
 原発被災地の復興まちづくりと現状 16

私たちの社会とさまざまな課題

コロナ禍における教育格差の問題と教育保障 16
 コロナ禍における高齢者の暮らし 17
 コロナ禍における貧困の現状 17

ボランティア団体の紹介

団体一覧 18
 震災関係 19,20,21
 防災 21
 国際 22
 教育・学習支援 23,24
 【コラム3】学外のボランティア団体での活動経験談 25
 貧困 / 地域支援 26
 環境 / キャリア・若者 27

編集後記 28

各種SNS情報 28

課外・ボランティア活動支援センター

東北大学では、学生の皆さんに向けて①さまざまなジャンルのボランティア活動の総合的支援、②ボランティア活動を取り入れた授業(サービス・ラーニング)の開発・提供を行なうために課外・ボランティア活動支援センターを設置しています。

ボランティア活動は、地域を知り、人と出会い、さまざまな現代社会の課題を学びきっかけにもなります。課外・ボランティア活動支援センターでは東北大学生の皆さんがボランティア活動に参加し、活躍できるさまざまな場を提供していますので、ぜひ積極的に活用してみてください。

ボランティア活動に参加してみたい方へ

ボランティア団体の話を聞いてみたい方は、春に開催されるボランティア・フェア(ボランティア団体の紹介イベント)に参加してみましょう(④)。ボランティア活動を体験してみたい方には、ボランティア体験プログラムがお勧めです(⑤)。ボランティア活動のコーディネートや企画運営に興味のある方は、課外・ボランティア活動支援センター学生スタッフSCRUMへの参加もいかがでしょうか(⑥)。その他にも、ボランティア活動に関する講演会・セミナー、ボランティア情報の配信サービス(⑦)などさまざまな選択肢を用意しています。ぜひ興味関心や生活スタイルにあったやり方でボランティア活動に参加してみましょう!

- ① 学生ボランティア団体に所属してみる → p18~27
 - ② 学外のボランティア団体・NPO等に参加してみる → p18~27
 - ③ ボランティア活動のコーディネートや企画運営と一緒にやってみる → p6,7
 - ④ ボランティア・フェアに参加してみる
 - ⑤ ボランティアツアー・スタディツアーに参加してみる
 - ⑥ ボランティア情報メール配信サービスに登録してみる
- } 詳細はp28(裏表紙)の利用案内よりご確認ください

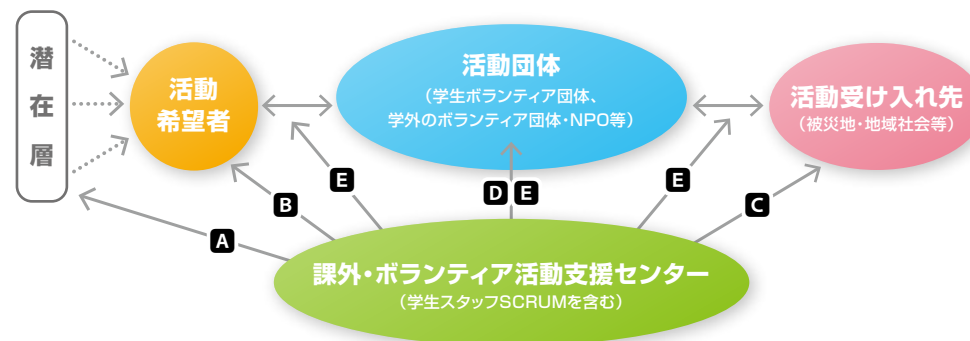
東日本大震災やボランティア活動に関する授業に関心のある方へ

東日本大震災被災地等でのボランティア活動やフィールドワークを通して社会に貢献しながら学ぶことのできる科目を、以下のように開講/開講協力しています。授業を通して現場に飛び出し、一緒に学んでみましょう!

科目群	授業題目	担当教員	開講時期
国際教育科目	国際教養PBL「東日本大震災の経験を未来につなぐ」	松原久・高橋結	[1S,3S]月3
カレントトピックス科目	福島復興・再生(仮)	佐々木啓一・廣木雅史・岩瀬恵一・高橋結・松原久・御手洗潤	[2S,4S] 曜日時間未定

※下線部は、課外・ボランティア活動支援センター教員

課外・ボランティア活動支援センターが提供する支援のイメージ



以下のような支援アプローチを通して、学生支援(学生の主体的な活動参加)、教育(市民としての学びの獲得)、社会貢献(地域社会への貢献活動)の充実を図ってきました。

- A 潜在層への活動働きかけ(講演会・セミナー、ボランティア活動に関する情報発信等)
- B 活動希望者への活動紹介(相談対応、ボランティアフェア、ボランティアツアー等)
- C 活動受け入れ先の開拓(活動受け入れに関する相談対応・ニーズ調査等)
- D 活動団体との連携・支援(授業連携、研修会、物品・場所の提供、助成金の紹介等)
- E つながりづくり(活動希望者—活動団体、活動団体—活動受け入れ先、活動団体間等)

東北大学生によるボランティア活動の広がり

時期	ボランティア活動の動き
2011年	東日本大震災の発災→学生主体の緊急支援活動が活発化するも、徐々に下火に
2012年ごろ	多様な活動団体と連携し、主に県内被災地におけるボランティア体験プログラム(ボランティアツアー・スタディツアー)の積極的展開
2013年ごろ	被災三県(岩手・宮城・福島)における、学生主体の復興支援活動が活発化
現在(※)	復興支援以外のジャンルにおいても活動が拡大

東北大学では東日本大震災をきっかけに、被災地に飛び出してボランティア活動に参加する学生の動きが活発化し、学生ボランティア団体も複数設立されました。しかし学業との両立、団体運営などの課題もあって、徐々に停滞してきました。そのなかで2012年ごろからは、大学としてボランティア体験プログラムを積極的に展開し、多くの学生が被災地・ボランティアに触れるきっかけを提供してきました。2013年ごろからは復興支援活動を行なう学生ボランティア団体が被災三県で立ち上がり、現在に至るまで活躍しています。学生ボランティア団体の活動ジャンルも、現在では復興支援以外へと拡大してきました。

※注:2022年2月時点では、新型コロナウイルスの感染拡大によって、活動に支障の出ている団体が多くなっています。しかし現在進行形でさまざまな課題も浮上しており(p16~17)、それらと向きあいながら、いかにボランティア活動をつくりあげていくかが問われています。

東北大学SCRUM

東北大学SCRUMは課外・ボランティア活動支援センターの学生スタッフ組織です。ボランティア活動を「したい人」「している団体」のつなぎ役(中間支援)として、それぞれに向けた活動・企画を行なってきました。また、充実した支援を行なうため、SCRUMメンバー自らが多様なボランティア活動の企画・参加や勉強会の企画も行なっています。SCRUMでは、以下のように「活動における3つの柱」を掲げています。

ボランティア (ボランティア活動の参加)

SCRUMメンバーは、災害が発生するごとに緊急支援活動を企画してきました。またメンバーの多くが、被災3県(岩手県、宮城県、福島県)の支援団体をはじめとした、多様なテーマで活動する団体にも参加しています。

学ぶ・深める

SCRUM内では、メンバーが関心を持ったテーマごとにプロジェクトチーム(PT)を結成し、学習会が行なわれています。その延長で、メンバー外への情報発信活動なども積極的に実施してきました。

ボランティアのボランティア(ボランティア活動の支援)

SCRUMは、ボランティアをやりたい人と、実際にやっている人・団体をつなぐ「ボランティアのボランティア」をしています。ボランティアしたい人びとに対しては、ボランティア活動の広報を行ない、ボランティア団体とは合同企画の実施や情報共有・連携を行なっています。SCRUMはセンターと連携して、ボランティア団体合同説明会(ボランティアフェア)や団体間交流会の実施、ボランティア情報を掲載する「ボランティアセミナージャーナル」の執筆など、さまざまな形でボランティアの輪の拡大と充実を図っています。

東北大学SCRUM

ボランティア

- 新たなニーズに対応したボランティア活動の企画
- 緊急災害派遣
- その他、団体への所属
 (とくに、被災3県で活動する、ほかほか・インクストーンズ・福興youth)

学ぶ・深める

- 震災伝承PT
- 情報発信PT
- 人権共生部(PT)
- 学校防災PT
- 国際部(PT)
- など

ボランティアのボランティア

学ぶ・深める

活動地を限定せず、それまでのボランティア活動の中で出てきた問題意識に対してテーマを設定し活動する「プロジェクトチーム(PT)」の紹介です。それぞれのチームで勉強会や問題解決に向けた活動を行なっています。

学校防災PT

学校防災PTは、東日本大震災における学校防災の教訓を東北大学生、特に将来教員になる可能性がある学生に伝えることを目的に活動しています。被災した学校の訪問や語り部の方からのお話を通じて、災害時の避難のあり方や防災教育についての学びを深めています。



▲大川小学校を訪問した際の様子



▲門脇小学校を訪問した際の様子

人権共生部(PT)

人権共生部(ひととも)は、活動のテーマを震災に限定せず、普段の生活を送る上でなかなか話題に上がらない、でもボランティア活動をするうえで知っておきたい人権問題について「共に生きること」を軸に学ぶ場です。2021年はジェンダー、ヤングケアラーなどを学びました。



▲人権差別に関する映画を鑑賞しました。



▲その後、感想を共有しました。

情報発信PT

情報発信PTは、震災関連のことや被災地についてより多くの人に知ってもらおうと、「東北大学生に寄り添った災害行動マニュアル」と「被災地を楽しんで、知る、一歩先の旅行プラン」の2つを主軸とし、月1~2回のミーティングやSNSでの情報発信を行なっています。



▲石巻・女川エリアの旅行プランの発信 (Instagram)



東北大学生向けの防災に関する情報の発信 (Twitter) ▶



ボランティア活動を始めてみて

SCRUMには多くのメンバーが所属しています。

今年度は、4名のSCRUM現役メンバーに

①ボランティアを始めたきっかけと、②実際のボランティア活動をして感じたギャップ・学んだことについて聞きました。



明 珍 達 也
(工学部2年)

主な活動

- ・学校防災PT
- ・福興youth

① ボランティアを始めたきっかけ

元々東北大学にボランティアサークルがあることは知っていましたが、きっかけとしては、新歓期間によくして頂いた先輩の紹介というあまり大したものではありませんでした。しかし仙台に来たからには、震災のことや今のボランティアって何をしたいのかを知りたいという思いから、ボランティア活動に乗り出しました。

② 実際に活動して感じたギャップ・学んだこと

今までボランティアと聞いて連想するのは瓦礫の撤去などの肉体的なものばかりでした。しかし実際には、例えば町おこしや情報発信など、本当にさまざまなことがあります。復興はまだ完了していない、それ故に私たちができることを、支援できることを模索していくことが必要だという意識が芽生えました。



松 田 鈴 奈
(法学部3年)

主な活動

- ・情報発信PT
- ・福興youth

① ボランティアを始めたきっかけ

私は友人にボランティア団体の紹介をしてもらったことがきっかけで、ボランティア団体に入りました。様々なボランティア団体の話を聞く中で、同じ震災系のボランティアでも、地域ごとに違った問題があることを知り、自分もその問題解決に向けて尽力したいと感じ、ボランティア活動を始めようと思いました。

② 実際に活動して感じたギャップ・学んだこと

新型コロナウイルスの影響で活動が大幅に制限され、ボランティア活動を行なう機会はとても少なかったのですが、だからこそ、それぞれの活動を無駄にしないよう意識しながら行なうことができたと思います。また、現地の住民さんもコロナ禍で苦勞されていることを知り、コロナ禍であっても継続的に活動することの大切さを学ぶことができました。



北 川 真 帆
(薬学部2年)

主な活動

- ・学校防災PT
- ・インクストーンズ

① ボランティアを始めたきっかけ

私は、「せっかくなら東北でしかできない新しいことをしてみたい」という思いから、東日本大震災に関わる活動をしたいと考えボランティアを始めました。

② 実際に活動して感じたギャップ・学んだこと

住民さんとお話し、地域の行事への参加など、様々な活動を通して強く感じるがあります。それは、被災者と呼ばれている方々にも震災以前は私たちのように普通の暮らしがあったということ、また、状況も人それぞれだということです。それまで被災者と括ってしまいましたが、そのことに気づいてからは一人の人として考えられるようになりました。こうしたことは、ボランティア活動を経て得ることが出来た貴重な気づきだと思います。今後も活動の幅を広げていき、より一層視野を広げていきたいです。



間 嶋 哲 平
(工学部3年)

主な活動

- ・学校防災PT
- ・インクストーンズ

① ボランティアを始めたきっかけ

大学生になり高校時代までと環境が大きく変化したこともあり、これまでにやってこなかったことを経験したいと思っていました。ボランティアはその中のひとつで、インクストーンズのスタディツアーに参加して、東日本大震災について周りの人に自分の言葉で説明できるようになりたいと感じ、活動に参加するようになりました。

② 実際に活動して感じたギャップ・学んだこと

活動の中で現地を訪れたり当時のことを知る方々にお話を聞いたりする機会が多くありますが、百聞は一見に如かずということをいつも感じます。語り部の方の生の声には心を動かされるものがありますし、同じ場所を訪れてもそのたびに新たな気づきがあります。多くの人に現地へ行ってもらうようにこれからも活動していきたいです。



東泉直宏
(法学部4年)

主な活動

- ・東北大学地域復興プロジェクト“HARU”
- ・仙台自主夜間中学



穴澤ゆず
(生命科学研究所 修士2年)

主な活動

- ・SCRUM
- ・インクストーンズ

ボランティア活動の経験と将来について

ここではボランティア経験の長いお2人に、ボランティア活動で得た経験や人との繋がりが、現在の活動や将来の目標・キャリア形成にどう影響しているか聞きました。

大学入学以来、自分が直接的に貢献できる場面が思いのほか豊富にありました。HARUでは子どもや住民の皆さんと楽しく交流する企画を実施したことに加え、夜間中学での学習支援などにも活動の幅を広げました。ボランティアで相手方と接する際には対等な関係性を意識してきたほか、継続的な取組の中から信頼関係が形成され、人同士が生き活きとつながれることを実感しました。現場での活動と並行し、ボランティアや東日本大震災、復興政策に関する授業も受講し、活動の社会的意義を考えるようになりました。

柔軟に動ける学生のうちに多様な経験を積んだうえで、将来的にも災害復興や社会課題の解決、困った方のために自らの力を発揮したいです。



イルミネーション設置をお手伝い

私は東北大学の理学部生物学科を卒業し、そのまま大学院に進学したのですが、ボランティア活動は大学1年生のころから続けています。私は主に石巻市で、地域の方のお話を聞く活動してきたのですが、現在も活動を続けているのは、地域の方との繋がりがあるからです。活動を重ねるうちに、学生の一人としてではなく、個人としての関係性ができたことで、ずっとかかわり続けたいと思うようになりました。私個人ができることは少ないですが、関係者人口を少しでも増やすという意味でも、私はできるだけこの活動を続けたいと思っています。



オンラインでの傾聴活動もしました。

東日本大震災を学ぶ

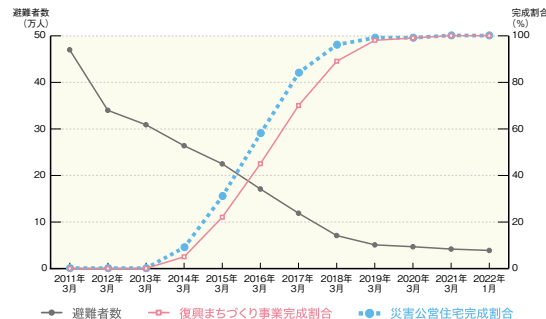
東日本大震災の概要

2011年3月11日14:46に三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生、最大震度7を観測しました。それに伴い起きた広範囲にわたる津波と、福島第一原子力発電所の事故は、現在も被災した各地に影響を及ぼし続けています。

震災によって生まれ育った場所に帰ることができなくなったり、長期にわたる避難生活を強いられたり、地域に帰っても人の数や町並みが大きく変わって生活しにくくなっていたり、場所やモノだけでなく大切な人を失った経験を持つ人もたくさんいます。

それでも被災地は、災害の発生から10年以上が経過するなかで少しずつ変化してきています。加速する人口減少・少子高齢化への対応、新たな住まい先でのコミュニティ形成など、震災を機に顕在化した課題は多く、学生ボランティアがお手伝いできることや学ぶべきことがたくさんあります。

東日本大震災の発災後11年の推移



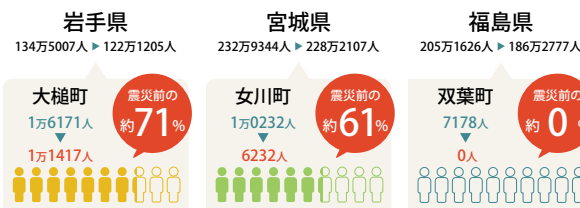
出典：復興庁「東日本大震災からの復興に向けた道のりと見通し[令和3年1月版]」「避難者の数[令和4年1月28日]」を基に作成

住まいの供給(災害公営住宅の整備)、ハード面の復興まちづくりはともに2020年12月に完了しています。三陸沿岸をつなぐ復興道路(三陸沿岸道)も2021年12月に全線開通しました。

しかし一人ひとりの視点からみると必ずしも復興を実感できているとはいえません。避難者は、2022年1月現在も3.9万人にのぼっており、生活再建後もコミュニティの問題、心の復興の問題、高齢社会におけるまちづくり・地域づくりの問題などが残されています。

被災地の人口変化

人口の比較(2010年/2021年)

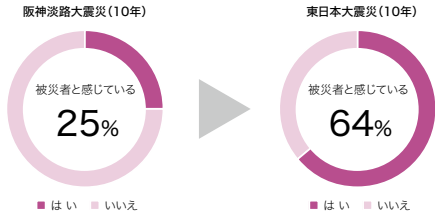


出典：住民基本台帳

被災三県の沿岸部では、利便性の悪化やまちづくりの完成の遅れなどから、内陸部・近隣都市部で新たな住まいを求めている方が多くなっています。その結果、人口減少・高齢化の進行も著しくなってきました。さらに全住民が避難を続けており、2022年6月の避難指示解除を目指す地域(福島県双葉町)も存在しています。

被災者だと感じている割合

被災した方のうちの半数以上が、いまだに自身を「被災者」と感じています。(出典:NHK)



被災された方の声

ここ(復興住宅)ではドアを閉めるとひとりきりになってしまう。なんとも言えない孤独感がある。男らしくないこというけど、泣きたくなる。(岩手県陸前高田市, 60代男性, 2014年)

震災から9年、10年という時間が経つと復興公営住宅において市からの補助金がもらえなくなり、集会所での集まりも減ってしまう。そんな中継続的に支援してくれる学生の活動は本当に助かります。(宮城県石巻市, 70代男性, 2019年)

12年目の被災地(者)とどう向きあうか?

①被災地(者)の課題に寄り添った支援

「被災地(者)の課題」は現在、地域ごと・人ごとに多様化しています。被災前のような生活を取り戻した方のすぐそばには「家族の犠牲」や「新たなまちでの生活」を受けとめきれない方がいらっしゃるかもしれません。被災地のなかにも「お互いに顔も分からないことによる孤立化」が深刻な地域から、「人口減少による伝統文化の消滅危機」に直面する地域まで存在しており、その地域ごと・人ごとに復興のあり方を考える必要があります。

▶▶▶ 地域・人の課題に寄り添った支援活動に参加してみよう

②復興の取り組みに学ぶ・活かす

被災地では、様々な課題に取り組む先進的な支援の仕組みや活動なども発展してきました。それらは東日本大震災以外の被災地や日本社会全体にとっても参考になるものです。また復興に向けて取り組んできた方のお話には、生き方としても学ぶべき部分が多くあります。

▶▶▶ 実際に取り組みの話聞いてみたり調べてみよう

<震災伝承施設の例>



津波遺構
 たろう観光ホテル
 岩手県宮古市
 2016年4月公開開始



震災遺構
 仙台市立荒浜小学校
 宮城県仙台市
 2017年4月公開開始



東日本大震災・
 原子力災害伝承館
 福島県双葉郡双葉町
 2020年9月公開開始

③東日本大震災を知り、伝える

東日本大震災被災地では、二度と同じ被害を繰り返さないために、伝承施設や伝承プログラムが数多く存在します。また、海とともに生きる沿岸部の地域の魅力なども学ぶことができます。伝承に関わる個人・団体のネットワークである、3.11メモリアルネットワークには、2022年2月時点で、個人会員578名、登録団体73団体が参加しています。

▶▶▶ 実際に訪問し、防災の必要性や被災地の魅力などを五感で触れてみよう



左上から、宮城県名取市閑上地区の風景、閑上の記憶の展示、北限のしらすのった海鮮丼

防災を学ぶ

日本では、2011年の東日本大震災のあとも様々な災害が起こっています。今後、災害で自分や大切な人を失わないように、「防災」について学んで、備えましょう。興味をもった箇所はぜひ調べてみましょう!

災害リスクを学ぶ



災害のフェーズと東日本大震災の教訓を学ぶ



今すぐできる個人の備えを学ぶ

スマホアプリ

いつでも見れるようにしておこう!

例えば、特務機関NERV防災、Yahoo!防災速報など

ハザードマップ

自宅、大学、良くいく場所をチェック!
 仙台市ハザードマップで検索!

地震以外にもあるよ!

避難所/場所へGO

実際に試してみることが大事!

2019年東日本台風では東北大生の居住地域も避難が必要に…

「防災」はまさに十人十色! あなたにあった備えをやってみよう!

全国の災害被災地での活動

東日本大震災の発生後、11年の間にも、日本各地で数多くの災害が発生してきました。東北大学では、東日本大震災での支援活動の経験から、災害が発生するごとに情報収集を行ない、現地の大学・団体と連携した緊急救援派遣、東日本大震災の教訓の伝承などを進めてきました。また災害によっては、短期的な救援活動にとどまらず、中長期的な復興支援活動も行なっています。

2018年 北海道胆振東部地震(北海道むかわ町)

2016年 台風10号(岩手県岩泉町)

2017年 7月豪雨(秋田県大仙市)

2015年 関東・東北豪雨(宮城県大崎市)

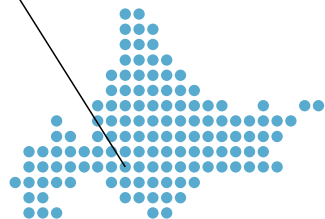
2019年 台風19号(宮城県丸森町)

2019年 台風15号・19号(千葉県銚南町)



▲広島県東広島市で広島大学と合同のニーズ調査

東北大学生が支援活動を行なった災害被災地一覧



▲オンラインで大学間合同の勉強会

2018年 大阪北部地震(大阪府高槻市)

2018年 西日本豪雨(広島県東広島市・呉市・坂町)

2016年 熊本地震(熊本県益城町・熊本市・御船町)

2020年 7月豪雨(オンライン)

復興まちづくりと現状

ここでは、東日本大震災から11年が経過した津波被災地や原発被災地の復興の現状と課題や、現地と関わる活動をしている学生の声を紹介します。

岩手県陸前高田市

● 陸前高田の現状

岩手県の沿岸南部にある陸前高田市は、県内でもとりわけ大きな津波被害を受けた地域です。中心部の高田地区には13~17m以上の津波が襲い、市全体で1,800名を超える方が犠牲となりました。



中心市街地の街並み

● 復興まちづくりの様子

約10mのかさ上げと高台造成によってまちの再建が進められてきましたが、この11年間で人口流出・高齢化が進み、空き地も目立っています。伝統ある「七夕まつり」も、コロナ禍とあって開催の中止/縮小が続いてきました。その一方で新たに震災伝承館や観光施設などが建設され、地域と関わりを持つ交流人口・関係人口の拡大が試みられています。また震災後に縁をもったボランティアや移住者によって、様々な住民交流活動や地域を盛り上げる活動も行なわれています。

現地からの声 震災から11年、道路や建物などハード面の復興は終わりが見えてきました。これからはソフト面がより充実するようにワクワクするような新しい魅力を創るフェーズです。陸前高田のこれからの楽しみです!(三陸花火競技大会実行委員会・浅間勝洋さん)

学生の声 2カ月に1通ほどお手紙をやり取りする方がいます。温かい手書きの文を心の中で読み上げると、まるで実際に話しかけられているようです。顔も知らない私の事を気にして下さり、離れていても繋がりを感じて嬉しです。(理学部4年・吉池奏乃)

宮城県石巻市

● 石巻の被害・復興まちづくりの様子

石巻市は宮城県の中でも特に被害が大きかった地域です。震度6強の非常に強い揺れと、その後発生した巨大津波によって沿岸部は壊滅的な被害を受け、市全域でライフラインが停止してしまいました。また地震に伴う二次被害も深刻で、市内の広範囲で地盤沈下や液状化が発生し、津波火災が引き起こされてしまった地域もありました。特に津波火災は、事前に発生の予測を行なうことが困難であったために想定外の対応を強いられることになり、被害が拡大する要因となりました。



日和山から見る門脇の景色 左 2021年4月 右 2021年12月 撮影

石巻市は、復興基本計画の基本理念の一つに「災害に強いまちづくり」を掲げ、さまざまな整備を進めてきました。数十年から数百年に一度の津波(L1津波)に耐えることのできる高さの防潮堤・堤防が建設されたほか、住宅の高台移転、高盛土道路による二重防壁などの施策も行われています。また門脇・南浜地区には復興記念公園や津波伝承館などが整備され、追悼と伝承の拠点としての役割が期待されています。震災から11年を迎えた現在、インフラや公共施設、住宅といったハード面から、その地域の住民の暮らしに焦点を当てたソフト面主体の復興へと移り変わる変換点を迎えています。

学生の声 実際にその地を訪れて自分の目で見ることの大切さを学びました。以前は震災の悲惨さに注目することが多かったのですが、その直前までいつもと変わらない生活が営まれていたことを実感しました。被災地を特別な場所として遠ざけるのではなく、親しみと共感をもって向き合うことが大切だと思います。(文学部2年・廣原かなで)

福島県

● 原子力災害からの復興

福島県の被害を甚大化し、避難生活を長期化させている大きな要因として福島第一原子力発電所の事故があげられます。地震や津波被害に加えて、原子力災害が重なった複合災害への対応が復興のプロセスを困難なものとしています。今なお空間線量が高い帰還困難区域では、立入制限がなされており、10年以上元々住んでいた地域に帰ることができない方々もおられます。また、農作物を中心とした風評被害もいまだ完全に解消されているとは言えません。この原因には、福島県産品への過剰な配慮や懸念などがあげられています^(※)。このように世間のイメージとのギャップも大きな課題の一つと言えるでしょう。



大熊町 避難指示解除区域(道路)

学生の声

見た目は何も変わっていないのに、住んでいた町に帰れない。その虚しさを、悔しさを、あなたは知っていますか？東日本大震災で、地震や津波に加えて原発事故を経験したのは福島だけです。放射線量が高い地域は、帰還困難区域として今も立ち入りが禁じられています。人が一切入れない空っぽの街は、11年前のあの時のまま、冷凍保存されたようにそのまま在ります。家があるのに、帰れない。そのもどかしさを抱えながら、今でも復興公営住宅で暮らす方々がいます。私たちに失った人やモノを取り返すことはできません。しかし、高齢化や若い世代の地元離れが進む中、新しい人のエネルギーを求めている場所があるのも確かです。私たちが被災地に赴く意味は、十二分ある。あなたはそう感じませんか？(工学部2年・明珍達也)

※参考:福島県(2020)『令和2年度福島県産農産物等流通実態調査』

私たちの社会とさまざまな課題

■ コロナ禍における教育格差の問題と教育保障

私たちの社会とさまざまな課題

ここでは、コロナ禍の影響で顕在化・深刻化している3つの課題をピックアップしています。震災に限らず、私たちの社会にあるさまざまな課題について、目を向けるきっかけになれば幸いです。

コロナ禍における教育格差の問題と教育保障

昨今のコロナ禍では、保護者の収入減に伴うアルバイト等の負担増加により、子どもの勉強時間が減るという問題が発生しています。また、さまざまな校内外における活動の制限の影響により、精神的な落ち込みや生活リズムの乱れなどの影響も懸念されており、子どもの見守りがますます大切な時代になってきています。そこで、子どもたちの抱える課題やボランティアとしてできることについて以下にまとめました。

● 中高生の子どもたちが学習面で抱えている課題

- 学ぶ環境が整っていない ———— 不登校、学校が安心できる場所ではない、家庭内での勉強場所がない
- 自分に合う勉強方法を見つけられない ———— 特別に対応すべき特性があっても、気づいてもらえない、対応してもらえない
- 学ぶ必要性を見出せない ———— 金銭的な問題や家庭の問題などから、教育を受ける意味を見出せない

● 子ども支援のボランティアにできること

- 勉強の楽しさや面白さを伝える
- 進路と一緒に考える
- 悩みを聞く
- 居心地のいい居場所をつくる

子どもが安心できる環境を守るためには学習面だけでなく、生活面でもさまざまな支援を考える必要があります。放課後のフリースペースのボランティアでは、大人がついて一人ひとりにあわせて丁寧に勉強を教えたり、進路相談に乗ったりしています。あなたも子どもたちを支援するボランティア活動をしてみませんか。



コロナ禍における高齢者の暮らし

新型コロナウイルスの感染拡大(以下、コロナ禍)によって、私たちの暮らしは外出や対面での交流機会が大きく制限されてきました。それに伴って進行してきたのが高齢の方の「社会的孤立」です。

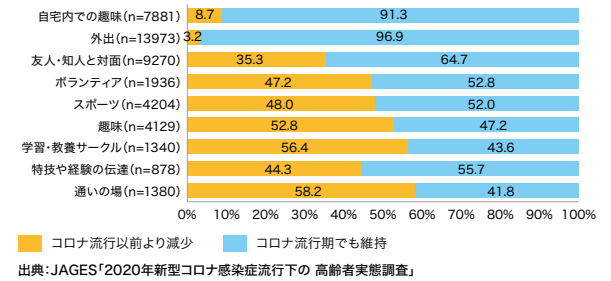
● 社会的孤立とは？

社会的孤立は、簡単にいうと「ひととのつながり」が希薄な状態です。ひととのつながりは、高齢になると、身体的な衰え、家族との離別、仕事の引退、住み慣れた地域からの転居など、さまざまなきっかけで失われやすくなります。またつながりが失われると、身体機能の低下やうつなども生じやすくなります。ここから日本の各地域では、学生ボランティアも参加しながら、つながりをつくる多彩な活動が展開してきました。

● コロナ禍で顕在化してきた課題

しかしコロナ禍になると、高齢者を対象とする活動は休止・縮小が続いてきました。その結果交流機会が減少し、心身の健康状態が悪化する高齢者(「コロナフレイル」とも呼びます)の増加も明らかになっています。そこで重要となるのが、感染リスクを低くしながら交流の機会を維持するアイデアです。高齢の方の暮らしの現状に触れることは、人生経験や暮らしの知恵等を学ぶ貴重な機会でもあります。そこで皆さんも、高齢の方を対象とする活動に参加し、自分にできる取り組みを考えてみてはいかがでしょうか。

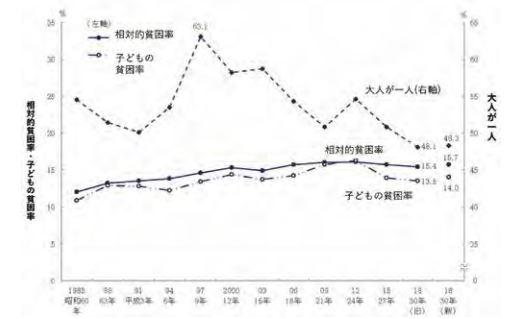
新型コロナ流行前後での活動頻度の変化



コロナ禍における貧困の現状

● 社会的貧困の課題

内閣府の2009年の調査では、日本の相対的貧困率はOECD加盟34カ国の中で10番目と高い水準にあるという結果が示されました^(※)。相対的貧困率とは、可処分所得の中央値の半分となる貧困線に満たない世帯員の割合を指し、コロナ禍以前の2018年には、人口の15.4%はこの相対的貧困の状況であるという調査もあります(右図:出典 厚生労働省(2020)『国民生活基礎調査』)。また、同調査では、子どもの相対的貧困の割合も14.0%とされており、これに伴う教育格差や貧困の連鎖も社会的な課題となっています。



● コロナ禍で顕在化してきた課題

仙台市では、従来、地方出身者にとって大都市圏の玄関口として機能してきたことや東日本大震災からの復旧・復興事業に従事するために労働者の方々が生活の拠点を移してきたことなどから、仕事の減少に伴う生活困窮に陥る方が多くおられます。加えて、近年のコロナ禍においては企業の業績悪化に伴う突然の解雇など、誰しもが貧困の状況に陥る可能性があります。一方で、貧困の状況に陥る前に活用できる制度を知らない方、既存の制度では対象から漏れる方がいることも事実です。こうした背景から、仙台市内でもセーフティネットとなる活動として、食糧支援や路上生活者の方に対する見回り、相談などを行なう民間非営利団体などの活動に市民のボランティアが参加しています。また、先にあげた教育格差の解消に向けて、東北大学の学生も学習支援などの分野でボランティアとして活躍しています。しかし、こうした民間の取り組みだけでは支援が行き届かないことから、民間だけではなく行政や大学など、複数の主体が連携、協働しながら、多様化する課題に対して必要な支援が行き届く社会を作っていく取り組みが求められていると言えるでしょう。

※平成26年度内閣府『平成26年版 子ども・若者白書』調査時点の加盟国数、2022年2月現在OECD加盟国は38カ国

ボランティア団体の紹介

ここでは、東北大学内のボランティア団体や東北大学生も参加する学外のNPO法人等をご紹介します。課外・ボランティア活動支援センターでは、例年、興味のある団体の説明が詳しく聞ける「ボランティアフェア」や「ボランティア体験会」なども企画しています。
 ★連絡先等は各ページをご覧ください!

01	東北大学 SCRUM	震災関係	学内	19p
02	東北大学陸前高田応援サークル ぽかぽか	震災関係	学内	19p
03	東北大学 インクストーンズ	震災関係	学内	20p
04	東北大学 福興youth	震災関係	学内	20p
05	東北大学ボランティアサークル たなぼた	震災関係	学内	20p
06	東北大学地域復興プロジェクト HARU	震災関係	学内	21p
07	震災復興・地域支援サークル ReRoots	震災関係	学内	21p
08	東北大学災害伝承プロジェクト もしとさ	防災	学内(登録外)	21p
09	国際ボランティア団体 AsOne	国際	学内	22p
10	東北大学フェアトレード推進サークル amo	国際	学内	22p
11	NPO法人 good!	国際	学外	22p
12	特別支援室・学生サポーター	教育・学習支援	学内(登録外)	23p
13	NPO法人 アスイク	教育・学習支援	学外	23p
14	認定NPO法人 キッズドア	教育・学習支援	学外	23p
15	NPO法人 TEDIC	教育・学習支援	学外	24p
16	仙台自主夜間中学	教育・学習支援	学外	24p
17	NPO法人 PASS ON	教育・学習支援	学外	24p
コラム	学外のボランティア団体での活動体験談			25p
18	反貧困みやぎネットワーク	貧困	学外	26p
19	東北大学光のベージェント Navidad	地域支援	学内	26p
20	三陸花火実行委員会 学生部	地域支援	学外	26p
21	TSALL東北	環境	学内(登録外)	27p
22	高校生支援団体 bridge	キャリア・若者	学内	27p
23	一般社団法人 ワカツク	キャリア・若者	学外	27p

00 団体名

ジャンル 学内

SNS
QR
code

- 1 活動場所・活動地域
- 2 活動頻度
- 3 定期ミーティング
- 4 メンバー数
- 5 活動内容
- 6 アピール・団体の目標など

代表:代表者名(学部・学年)

E-mail:hoge@example.com

01 東北大学 SCRUM

震災関係 学内



Twitter

- 1 岩手県・宮城県・福島県の被災地
- 2 不定期(目安は月1回)
- 3 毎月第二火曜日
- 4 65名
- 5 #被災地へのツアー #ボランティア #社会問題の学習会
- 6 SCRUMでは、東日本大震災に関連した活動を、自分の興味に応じて行なうことができます! 興味のある方は気軽にご連絡ください!



代表:吉田 敦哉(文学部3年)

E-mail:vol.tohoku.univ@gmail.com

02 東北大学陸前高田応援サークル ぽかぽか

震災関係 学内



Twitter

- 1 岩手県陸前高田市
- 2 月1回程度
- 3 水曜日
- 4 24名
- 5 #コミュニティ形成支援 #伝承、情報発信 #地域活動の支援
- 6 活動の3本柱を軸に、住民さんとの交流企画や震災関連知識を学ぶスタディツアー等を通して、地域課題解決への貢献を目標としています。



代表:堀田 楓(法学部3年)

E-mail:tohoku.poca2@gmail.com

03 東北大学 インクストーンズ

- 1 宮城県石巻市
- 2 月1回程度
- 3 月曜日
- 4 30名程度
- 5 #地域コミュニティ支援 #スタディツアー #手紙交換
- 6 「石巻に寄り添い合う」の理念の元、コミュニティ支援を中心に石巻のサポートをしています!

震災関係 学内



Twitter



代表: 古谷野 皓大(工学部3年) | E-mail: tohoku.inkstones@gmail.com

04 東北大学 福興youth

- 1 福島県浜通り地域
- 2 月に1、2回
- 3 木曜日(長期休み期間等を除く)
- 4 28名
- 5 #福島の現状を知り学ぶ #福島の情報を発信する #現地のコミュニティへの支援
- 6 発災から10年が経った現在でもなお変化し続ける福島を観察し、そこで得た知見の発信とボランティア支援を行なっています。

震災関係 学内



Twitter



代表: 夏井 くるみ(文学部3年) | E-mail: fukkoyouth.tohoku.univ@gmail.com

05 東北大学ボランティアサークル たなぼた

- 1 仙台市や石巻市の復興公営住宅
- 2 月2回
- 3 不定期
- 4 37名
- 5 #集会所でのサロン活動 #地域イベントの支援 #町内会活動のお手伝い
- 6 私たちたなぼたは復興公営住宅のコミュニティ形成を目的に活動しています。気軽に活動参加できる雰囲気が特長です。

震災関係 学内



Twitter



代表: 細井 恵美莉(文学部3年) | E-mail: tanabotatohoku6@gmail.com

06 東北大学地域復興プロジェクト HARU

- 1 宮城県山元町
- 2 月1・2回
- 3 月に1度
- 4 12名
- 5 #被災地支援 #イベント運営お手伝い #スタディツアー
- 6 今年度は山元町でさらに活動の幅を広げていこうと思っています! 学業、バイトとの両立もしやすいです!

震災関係 学内



Twitter



代表: 菅野 友哉(教育学部4年) | E-mail: koho@haru-tohoku.org

07 震災復興・地域支援サークル ReRoots

- 1 仙台市若林区沿岸部
- 2 週2日+α(定例会議、週末の活動+その他会議、活動)
- 3 火曜19:00~22:00
- 4 24名
- 5 #地域農家の支援 #ツーリズム企画 #地域福祉の構築
- 6 被災地の課題を分析し、数十年後を見通して活動しています。農業、福祉、まちづくりなど様々な分野に取り組んでいます。

震災関係 学内



Twitter



代表: 神林 拓真(文学部3年) | E-mail: reroots311@yahoo.co.jp

08 東北大学災害伝承プロジェクト もしとさ

- 1 東北沿岸地域、仙台
- 2 2・3ヶ月に1回
- 3 月または木曜日
- 4 5名
- 5 #防災活動 #震災の教訓をいかす
- 6 東北大学生のメンバーで構成される防災団体です!東日本大震災の教訓を生かした防災を広めていく活動を主に行っています。共に震災、防災について学び、共に広めて行きましょう!!一緒に防災始めませんか?

防災 学内(登録外)



Twitter



代表: 田中 駿介(理学部4年) | E-mail: moshitosa.tohoku.univ@gmail.com

09 国際ボランティア団体 As One

- 1 宮城・石巻、その他東北沿岸、海外(コロナ前)
- 2 月に2回程度(対面)
- 3 月曜日
- 4 30名程度
- 5 #海外建築ボランティア #こころの森ボランティア #スタディツアー
- 6 3つの活動理念 ①海外建築 ②東北支援 ③居場所づくりに基づいて、AsOneはボランティアをはじめ、東北のスタディツアーやオリエンテーリングイベントなどを行なっています。

国際 学内



Twitter



代表:三上 雄大(工学部3年) | E-mail:tohoku.asone2013@gmail.com

10 東北大学フェアトレード推進サークル amo

- 1 オンライン(ミーティング)/仙台駅周辺(フィールドワーク)
- 2 週1回(オンライン)
- 3 メンバーの都合に合わせて柔軟に変更しています!
- 4 10名(4年3名・3年2名・2年5名)
- 5 #全国の高校に出勤授業 #認知度調査 #OneDayCafe企画
- 6 【フェアトレードが当たり前前の社会へ】学内だけでなく東北地方への普及を目指します!

国際 学内



Twitter



代表:武田 与(理学部3年) | E-mail:amo.fairtrade.tohoku@gmail.com

11 NPO法人 good!

- 1 国内(長野、静岡、広島) 海外(スリランカ、モンゴル、タイ、韓国)
- 2 年に10回程度
- 3 不定期
- 4 20名程度(プログラムによって異なります)
- 5 #大学生のきっかけづくり #ワークキャンプ #きっかけキャンプ
- 6 “若者のきっかけづくり”を目的に、ボランティア・ワークキャンプ(合宿型ボランティア)を行っています。近年は、コロナ禍の大学生を対象に「きっかけ+仲間づくりキャンプ」を実施しています。

国際 学外



HP



代表:磯田 浩司 | E-mail:info@good.or.jp

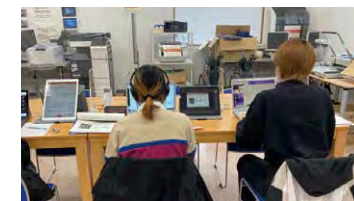
12 特別支援室・学生サポーター

- 1 特別支援室
- 2 週1・2回程度
- 3 不定期(月に1回)
- 4 37名
- 5 #情報保障 #文字おこし #学習支援 #バリアフリーマップ作成
- 6 特別な支援が必要な学生への支援を行なう団体です。誰もが快適な生活を送れる東北大を目指して活動しています。

教育・学習支援 学内(登録外)



Twitter



東北大学 特別支援室 | E-mail:t-sien@ihe.tohoku.ac.jp

13 NPO法人 アスイク

- 1 仙台市内・岩沼市・白石市・町村部(大和町、松島町、七ヶ浜町、利府町、大河原町、柴田町、亘理町、村田町、加美町、美里町、涌谷町)
- 2 月曜～金曜の内、週1～2回程度。1回あたり2～3時間程度
- 3 曜日によって異なります
- 4 3～5名(場所によって異なります)
- 5 #小学生・中学生・高校生の居場所・学習サポート #不登校児の居場所サポート
- 6 生きづらさを抱える子ども達へ勉強のサポートや、居場所の提供を行ない、子ども達の将来を一緒に考えていく活動をしています。

教育・学習支援 学外



HP



代表:大橋 雄介 | E-mail:info@asuiku.org

14 認定NPO法人 キッズドア

- 1 仙台市宮城野区
- 2 週7日
- 3 都度
- 4 ボランティア数 約100名
- 5 #中高生の学習サポート #将来を考えるワークショップ
- 6 すべての子どもたちが夢と希望を持てる社会の実現を目指しています。

教育・学習支援 学外



Twitter



代表:渡辺 由美子 | E-mail:tohoku@kidsdoor.net

15 NPO法人 TEDIC

- ① 宮城県石巻市
- ② 週1~2回
- ③ 不定期(月1回)
- ④ 43名(ボランティア)
- ⑤ #子どもの学習生活支援 #フリースクール #体験プログラム作り
- ⑥ 学生ボランティアが主体となり、石巻で不登校や家庭状況等の困難を抱える子ども・若者を支える団体です。

教育・学習支援 学外



共同代表: 鈴木 平・大津 賢哉 | E-mail: office@npo-tedic.net

16 仙台自主夜間中学

- ① 仙台市市民活動サポートセンター、仙台市生涯学習支援センター
- ② 昼間部: 第1・3水曜日、夜間部: 第1・3水曜日、第2・4金曜日
- ③ 不定期(年に数回)
- ④ 2名(東北大学生)
- ⑤ #大人の学び直し支援 #みんなで季節の行事
- ⑥ 病気や家庭の事情、不登校・ひきこもりなどで学校に満足に通えなかった方などに寄り添い、学び直しをお手伝いしています。

教育・学習支援 学外



代表: 中澤 八榮 | E-mail: sendai.yakan@gmail.com

17 NPO法人 PASS ON

- ① 仙台市青葉区本町
- ② 週2回
- ③ 火曜日、木曜日
- ④ スタッフ6名、学生ボランティア12名
- ⑤ #フリースクールの運営 #無料LINE電話相談
- ⑥ 小中学生対象の無料フリースクールを運営し、不登校に悩む親子の心の支援・居場所づくりを目指しています。

教育・学習支援 学外



代表: 今野 朝奈 | E-mail: info@npo-passon.org



学外のボランティア団体での活動体験談

東北大学生は、学内のボランティア団体以外にも、学外の団体に所属し様々な分野の活動を行なっています。このコラムでは学外の団体に所属して活動している田口碩人さんに、参加したきっかけや体験談などを聞きました。

参加している団体

認定NPO法人 キッズドア

キッズドアでの活動は2年前のジャーナルの冊子で紹介されているものを見て、ここで教育支援をしたいと思い1年生の10月頃から始めました。実際に活動してみると、キッズドアはどの学習会もとても良い雰囲気です。ボランティア、生徒ともに和気あいあいとしており、とても楽しいです。また学外での活動なので様々な仕事をされている社会人ボランティアの方とも交流することができて大変勉強になっています。

田口 碩人 (理学部3年)



学内団体と学外団体の特徴を比べてみました

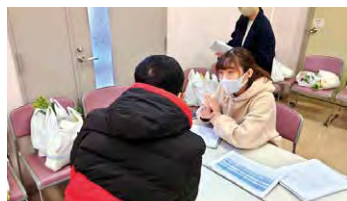
	学内団体	学外団体
団体運営の主体	東北大学生(主に2,3年生)	社会人や他大学学生が中心
定期ミーティング	学内の教室や部室等(対面時)	学外の会議室等(対面時)
活動場所	学内~学外まで多様	学外
こんなひとにおススメ	東北大学生の知り合いをつくりたい。学内でも活動してみたい	社会人や他大学の学生とも交流してみたい
活動を通して得られるもの	自分たちで活動や団体をつくりあげていく力	社会人等と協働で活動をつくりあげていく力

18 反貧困みやぎネットワーク



貧困 学外

- 1 おもに青葉区内の市民施設
- 2 月2回のミーティング、不定期にイベントなど開催
- 3 参加者の都合により変動
- 4 約10名
- 5 #生活・労働相談 #調査活動・政策提言 #外国人労働者の支援
- 6 「誰もが普通に生きられる」社会を求めて活動しています。コロナ禍では、外国人技能実習生への人権侵害の是正、差別的な貸付制度の改善を実現しました。



代表: 菊地 修 | E-mail: hhmiyaginet@gmail.com

19 東北大学光のページェント Navidad



地域支援 学内

- 1 仙台市
- 2 1月から9月までは月1回程度の定例会、10月~12月は月2回程度の定例会、12月の点灯期間中は定禅寺通りの見回り等をシフトを組み、行なう。※行う企画によって変動する可能性あり
- 3 土曜日
- 4 15名
- 5 #光のページェント #イベント運営 #企画の立案
- 6 「Navidad」は「学生の視点から光のページェントをより楽しんでもらうことはできないか」をコンセプトにSENDAI光のページェントの企画・運営に携わる団体です。



代表: 阿部 錬(工学部4年) | E-mail: newton3213@gmail.com

20 三陸花火実行委員会 学生部



地域支援 学外

- 1 オンライン(メンバーが全国各地にいるため。年に2回ある花火大会当日は岩手県陸前高田市に集合します。)
- 2 週一回の全体ミーティング+担当するプロジェクトに関する活動
- 3 火曜日
- 4 13名(高校生~大学生)
- 5 #広報イベントの企画運営等
- 6 私たちは三陸花火を全国に広めることを目的としています。全国各地の仲間と共にイベント運営や地域活性化のお手伝いをして、三陸を盛り上げていきます!



担当者: 矢崎 碧(文学部4年) | E-mail: sanrikuhanabi.gakuseibu@gmail.com

21 TSALL東北



環境 学内(登録外)

- 1 宮城県仙台市、川崎町ほか
- 2 週1・2程度(参加自由)
- 3 不定期
- 4 20名
- 5 #環境についての勉強会 #農林業のお手伝い #育樹・植樹・活樹活動
- 6 私達は宮城県を中心に環境や里山の保全に関する活動を行なっています。基本毎週土日に活動しており、自分がやりたい活動への参加が可能です!



代表: 伊藤 潤一(工学部3年) | E-mail: tsall.tohoku@gmail.com

22 高校生支援団体 bridge



キャリア・若者 学内

- 1 日本全国(主に東北地方)
- 2 月1回
- 3 不定期
- 4 7名
- 5 #学習支援 #進路相談
- 6 「高校生に架け橋を」を理念に掲げ、高校生向けに大学受験のアドバイスや進路選択のサポートをしています!



オープンチャットでの進路相談の例▶

代表: 後藤 丞(文学部4年) | E-mail: bridge.univ.tohoku@gmail.com

23 一般社団法人 ワカツク



キャリア・若者 学外

- 1 仙台市・オンライン
- 2 週2・3回程度
- 3 特になし
- 4 16名(インターン生等含む)
- 5 #実践型インターン #仙台若者アワード #応援し合う東北
- 6 実践型インターン、若者の地域での活動支援の事業を展開。コロナ以降は困窮している学生の支援も行なっています。



代表: 渡辺 一馬 | E-mail: musubaru@wakatsuku.jp